

令和6年度
『保育者として働く卒業生対象のアンケート調査』
報告書

駒沢女子短期大学
自己点検・評価委員会

1. 調査概要

(1) 調査目的

本調査は、駒沢女子短期大学・保育科の卒業生が獲得した学修成果（「保育者」及び「社会人」として求められる資質・能力）について、その後の経過を把握し、本学の教育活動（学修活動）の効果を検証することを目的に実施した。

(2) 調査時期：2025年1月～3月

(3) 調査対象：本学卒業後、保育者として働く経験年数5年目までの卒業生247名
※有効回答数：57名（約23%）

(4) 調査方法：オンラインによる質問紙調査（Google Form）
アンケートフォームのQRコードが記載された案内文書を送付し回答を求めた。

2. 調査内容

(1) 卒業生の基本情報

①氏名

②経験年数：1年目～5年目（令和元年度～令和5年度に本学を卒業した卒業生）

③取得資格：幼稚園教諭二種免許状・保育士資格・取得なし

④勤務先：幼稚園・保育所・認定こども園・施設

⑤雇用形態：正規・契約・派遣・パート・転職予定・退職予定

(2) 「保育者」として求められる資質・能力

本学での学修活動（教育活動）を通じて獲得した「保育者」として求められる資質・能力について、古屋・川口・村野（2017）が作成した全21項目からなる自己評価式の尺度を使用した。卒業生には、各項目について「今のあなたは、どの程度、発揮（実践）できると思いますか」と尋ね、「1. そう思わない」「2. そう思う」「3. とてもそう思う」「4. 非常にそう思う」の4件法で回答を求めた。

（項目例）「教育・保育・支援の基礎知識を理解している」
「子ども（利用者）の姿を客観的に捉えることができる」
「自分で指導（支援）計画を立てることができる」

(3) 「社会人」として求められる資質・能力

本学での学修活動（教育活動）を通じて獲得した「社会人」として求められる資質・能力について、古屋・川口・村野（2017）が作成した全15項目からなる自己評価式の尺度を使用した。卒業生には、各項目について「今のあなたは、どの程度、発揮（実践）できると思いますか」と尋ね、「1. そう思わない」「2. そう思う」「3. とてもそう思う」「4. 非常にそう思う」の4件法で回答を求めた。

（項目例）「適切な文章表現力がある」
「正しい生活習慣が身についている」
「自分から進んで協力することができる」

(4) 本学の教育活動に関する意見（自由記述）

- ①本学の教育活動において最も印象に残っていること
- ②本学在学中に学修しなかったこと
- ③卒業生を対象とした研修会『フォローアップ・セミナー』において取り扱ってほしい内容

3. 調査結果

(1) 保育経験（卒業年度）

令和6年度の調査に回答した57名の卒業生の経験年数は図1に示す通りである。4年目、2年目、1年目が13名（23%）、5年目（11名：19%）、3年目（7名：12%）と続いた。

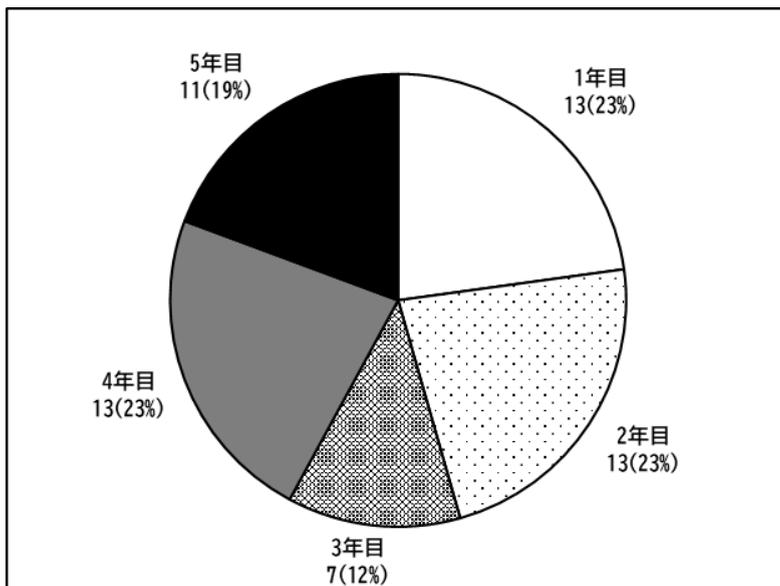


図1. 経験年数ごとの卒業生の内訳

(2) 資格取得状況（幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格）

令和6年度の調査に回答した57名の卒業生の資格取得状況は図2に示す通りである。

全体の91%（52名）が、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格を両方保持していることが分かった。

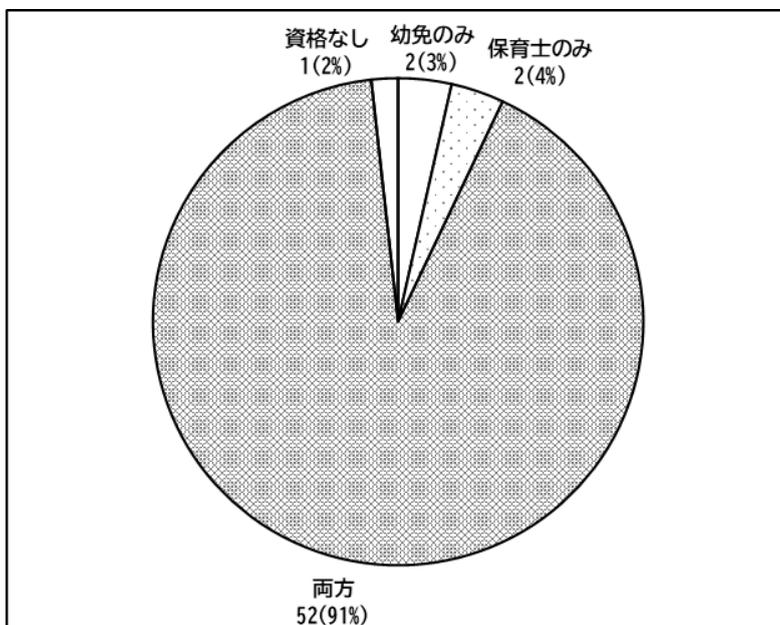


図2. 卒業生の資格取得状況

(3) 現在の勤務先と雇用形態

①勤務先

令和6年度の調査に回答した57名の卒業生の勤務先は図3（次ページ）に示す通りである。

現在の社会情勢からもうかがえる通り、保育所で勤務する卒業生が全体の54%（31名）と最も多く、幼稚園が26%（15名）、認定こども園が16%（9名）と続いた。施設に勤務する卒業生は全体の4%（2名）であった。

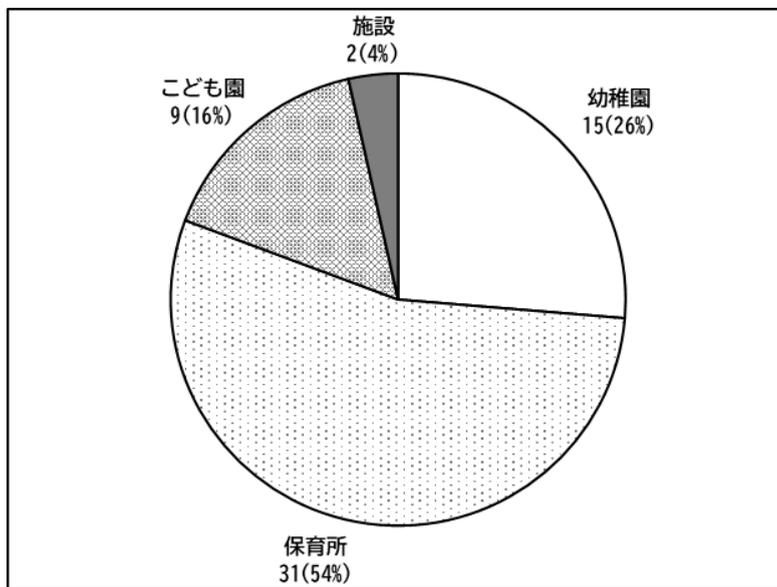


図3. 卒業生の勤務先内訳

②雇用形態

令和6年度の調査に回答した57名の卒業生の雇用形態は図4に示す通りである。

正規（フルタイム）職員として勤務する卒業生が最も多く、全体の91%（52名）を占め、転職予定の卒業生が9%（5名）いた。なお、本年度は退職予定、パートタイムで勤務する卒業生はいなかった。

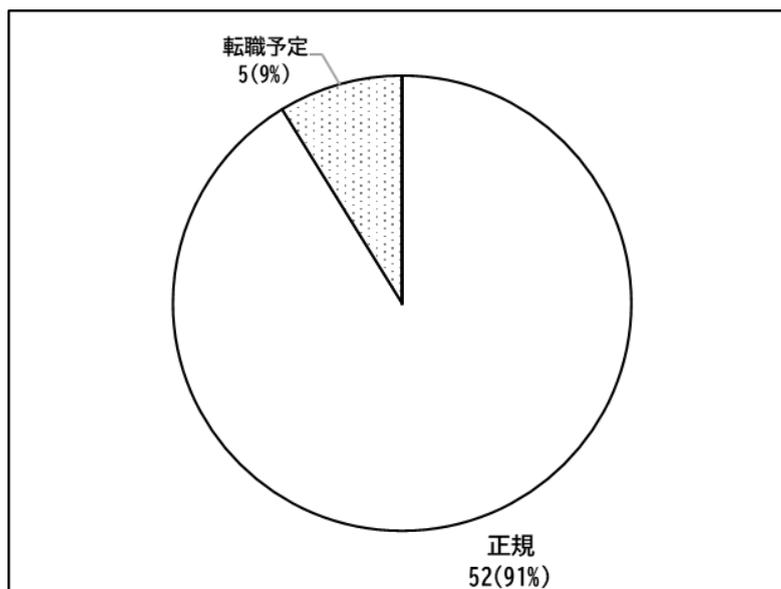


図4. 卒業生の雇用形態

(4) 保育者として求められる資質・能力

保育者として求められる資質・能力（本学の学修成果「遊び力」と「表現力」に相当）について、現在、どの程度実践することができるか、卒業生自身に評価してもらった。

その結果、子ども（利用者）の「④幸せを最善に考えること」や「⑤思いの共鳴」、「⑥個性の受容」「⑦信頼関係の構築」「⑦遊び（活動）を共に楽しむこと」は実践できていると高く自己評価（全体平均が3.00以上の項目）する卒業生が多かった。この結果から、卒業生は、子ども（利用者）の幸せを願いながら、子ども（利用者）との関係性を基盤とした保育を大切にしていることがうかがえた（図5）。

他方、「⑨音楽」や「⑩造形」を通じた自由表現については、自己評価（全体平均が中央値の2.50未満の項目）が低かった。この結果は、本学の学修成果である「表現力」が十分に発揮されていないことをうかがわせる。後述の結果も含めて考察するに、本学での表現活動の機会が不足しているということではなく（本学の教育活動で印象に残っている活動として表現活動が多く挙げられているため）、本学で経験する表現活動と保育現場で実践する表現活動とのずれから生じたものと考えられる。

また、「⑧保護者（保証人）との積極的な関わり」については、年次を重ねるごとに自己評価が下がっていることも分かった。フォローアップ・セミナーで取り扱う内容として保護者対応も挙げられていることから、卒業生は、保護者とのかかわりや対応に難しさを感じていることがうかがえた。

以上の結果から、今後は、保育者としての使命感や責任感を育む教育活動を続けながら、現場の実情に合わせた保育展開や活動内容や、保護者対応に関する事項の学びを充実させたカリキュラム運営を意識していきたい。

(5) 社会人として求められる資質・能力

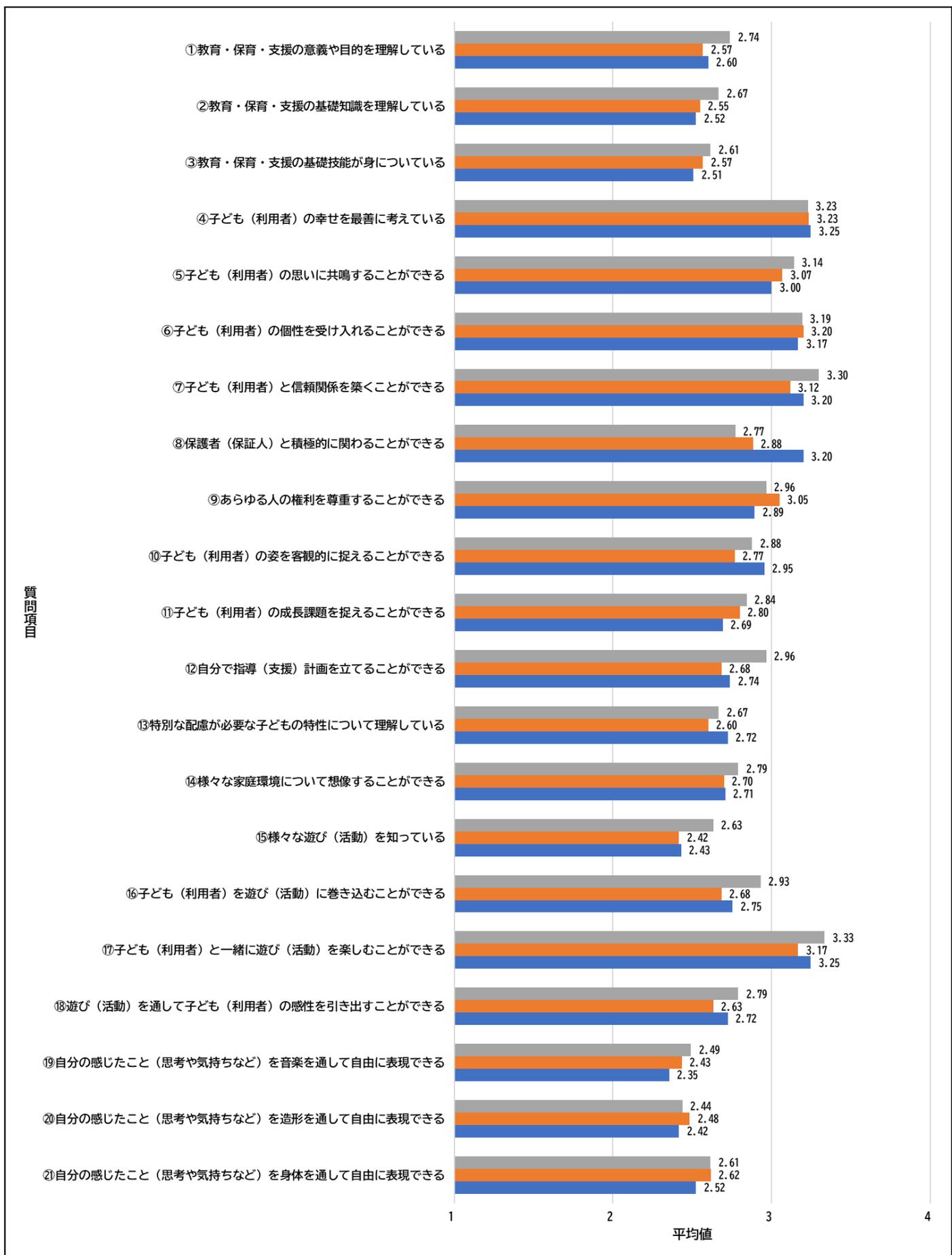
保育者として求められる資質・能力と同様に、社会人として求められる資質・能力（本学の学修成果「思考力」と「人間力」に相当）について、現在、どの程度実践することができるか、卒業生自身に評価してもらった。

その結果、「③正しい生活習慣」や、「⑥自然への興味・関心」「⑦自然や美しいものに感動する心」「⑫人の気持ち考えること」「⑭他者を思いやる気持ち」については、全体平均が3.00を超えており、卒業生の自己評価が比較的高かった（図6）。

また、これまでは自己評価が低かった「①適切な文章表現力」や「②語彙力」、「⑤社会の出来事への関心」「⑧積極性」「⑨前向きさ」「⑪物事の問題や課題への気付き」については改善がみられた。これは、基礎学力テストの結果を受けた学習支援の導入や、現代の保育実践課題を取り上げた授業科目における学びの成果とうかがうことができる。

十分な改善とまでは言えないものの、基礎学力の定着や、現代の保育実践に関する課題を学ぶ授業科目の充実を継続して取り組んでいきたい。

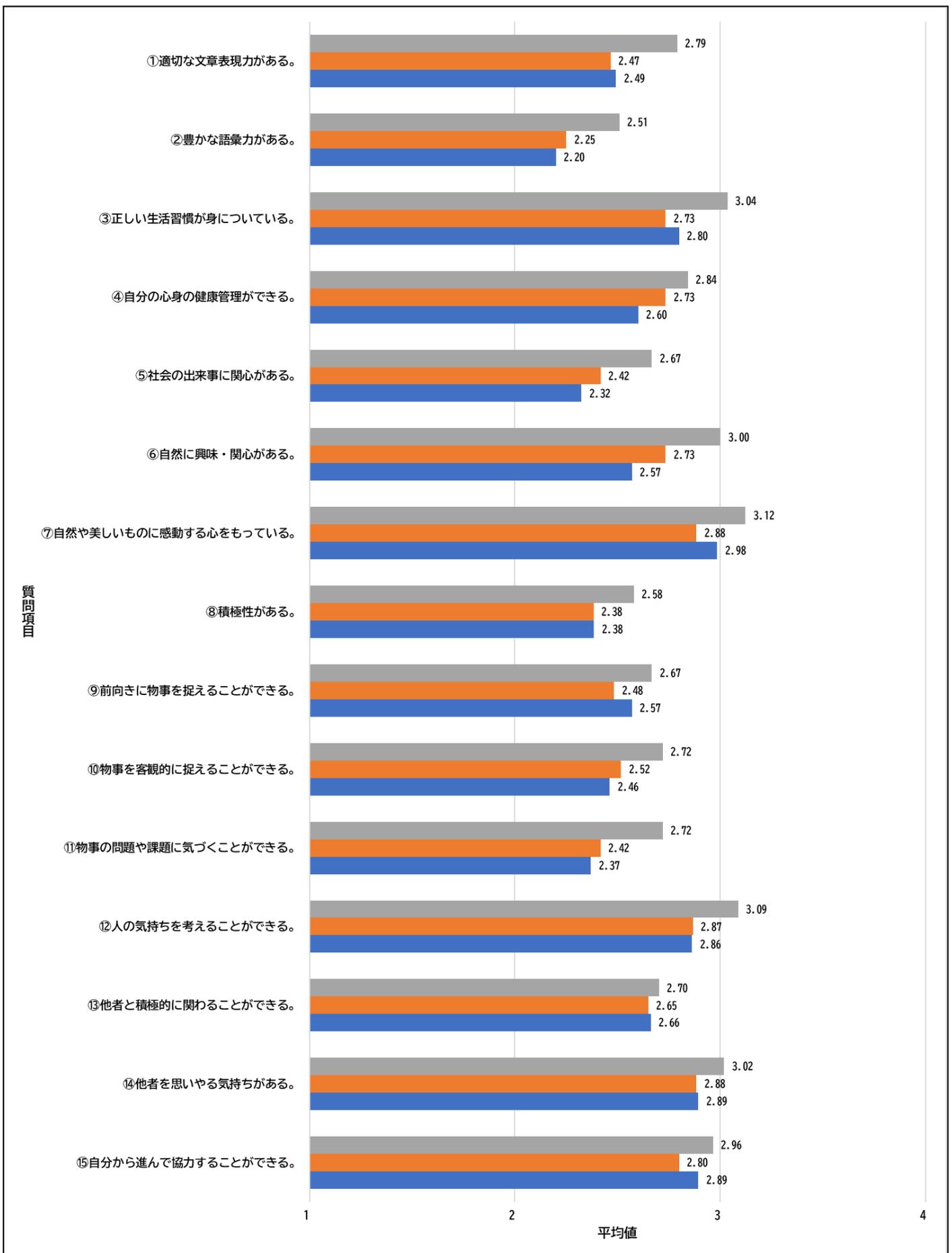
次ページ以降に図5・図6が続く



※1：グラフ上段（灰色：令和6年度）・中段（オレンジ色：令和5年度）・下段（青色：令和4年度）

※2：表中数字「1：そう思わない」「2：そう思う」「3：とてもそう思う」「4：非常にそう思う」

図5. 「保育者」として求められる資質・能力の平均値



※ 1：グラフ上段（灰色：令和6年度）・中段（オレンジ色：令和5年度）・下段（青色：令和4年度）

※ 2：表中数字「1：そう思わない」「2：そう思う」「3：とてもそう思う」「4：非常にそう思う」

図6. 「社会人」として求められる資質・能力の平均値

(6) 本学の教育活動の中で印象に残っていること

本学の教育活動において最も印象に残っていることを尋ねた結果、全53件の回答が得られた。その内訳は図7の通りである。最も多かった回答は、身体表現発表会（11件：21%）であった。次いで、造形の授業やダンボール制作展などの造形活動（10件：18%）、実習（7件：13%）やりんどう祭（6件：11%）と続いた。

この他、ピアノや手遊びなどの音楽活動（5件：9%）や、運動会や体育授業などの身体活動（5件：9%）、焼き芋大会や自然の顔探しなどの自然活動（3件：6%）も多かった（表1）。

いずれの活動も、本学を代表する活動であり、学修成果「表現力」「遊び力」の獲得を促すことを意図して設けた学校行事や授業科目である。これらの教育活動が卒業生の印象として残っていることを踏まえつつ、先述した改善点（保育実践に活かせる内容）も考慮しながら各活動の充実を図っていきたい。

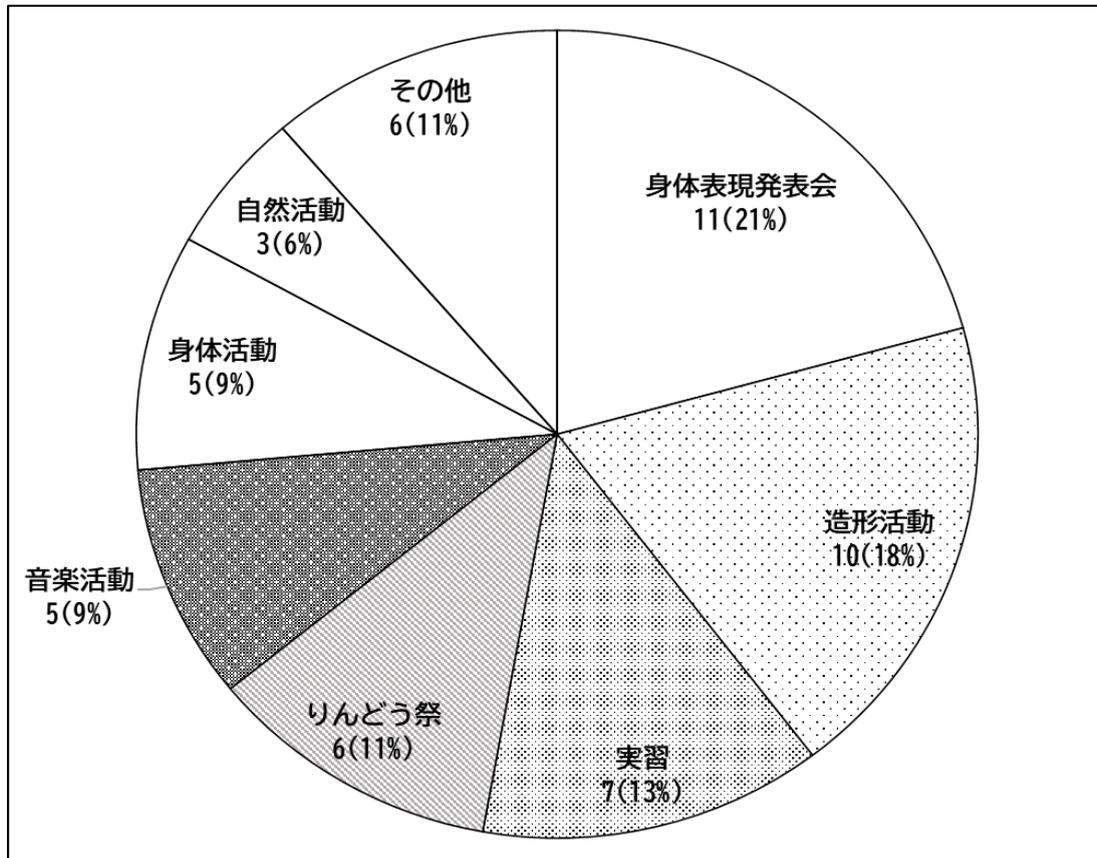


図7. 本学の教育活動の中で印象に残っていること

表1. 本学の教育活動の中で印象に残っていることへの回答例

分類	回答数	%	回答例
身体表現発表会	11	20.8	身体表現発表会, 表現発表会
造形活動	10	18.9	バルーンドーム制作, 段ボール制作, 造形表現
実習	7	13.2	日誌添削(先輩後輩), 保育実習指導Ⅲの授業
りんどう祭	6	11.3	りんどう祭準備, 園児との共同制作活動, 園児との交流
音楽活動	5	9.4	音楽基礎(ピアノ), 音楽表現, 手遊び
身体活動	5	9.4	運動会, 着衣泳, エアロビ, リトミック
自然活動	3	5.7	焼き芋大会, 自然の顔探し
その他	6	11.3	仏教学, AED講習, お便り作成, 沐浴人形を使用した授業
合計	53	100.0	

(7) 本学在学中にもっと学修したかったこと

卒業生が在学中にもっと学修したかったこと（全56件の回答）を集約した結果は、図8の通りである。

最も多かったものは、特別支援（9件：16%）・保育方法（9件：16%）・遊び（9件：16%）であり、次いで、保護者対応（8件：14%）や造形活動（6件：11%）・音楽活動（4件：7%）が挙げられた。その他には、記録・計画（2件：4%）や身体活動（2件：4%）が挙げられた。

特別支援は、毎年、最も多く挙げられる事項であり、保育現場でのニーズの高さもうかがえる。その一方、昨年度は、造形・音楽・身体活動に関する事項が多かったが、今年度は、保育方法や遊び、保護者対応に関する事項の方が多く挙げられた。保育実践に活用できる表現活動の引き出しを増やす学修は継続しながら、環境構成や子どもとの関わり方、遊びの援助などの保育方法や、保護者との面談や保護者会の運営、保護者支援の在り方など、保護者との関わり方に関する学修も含められるようにしていきたい。

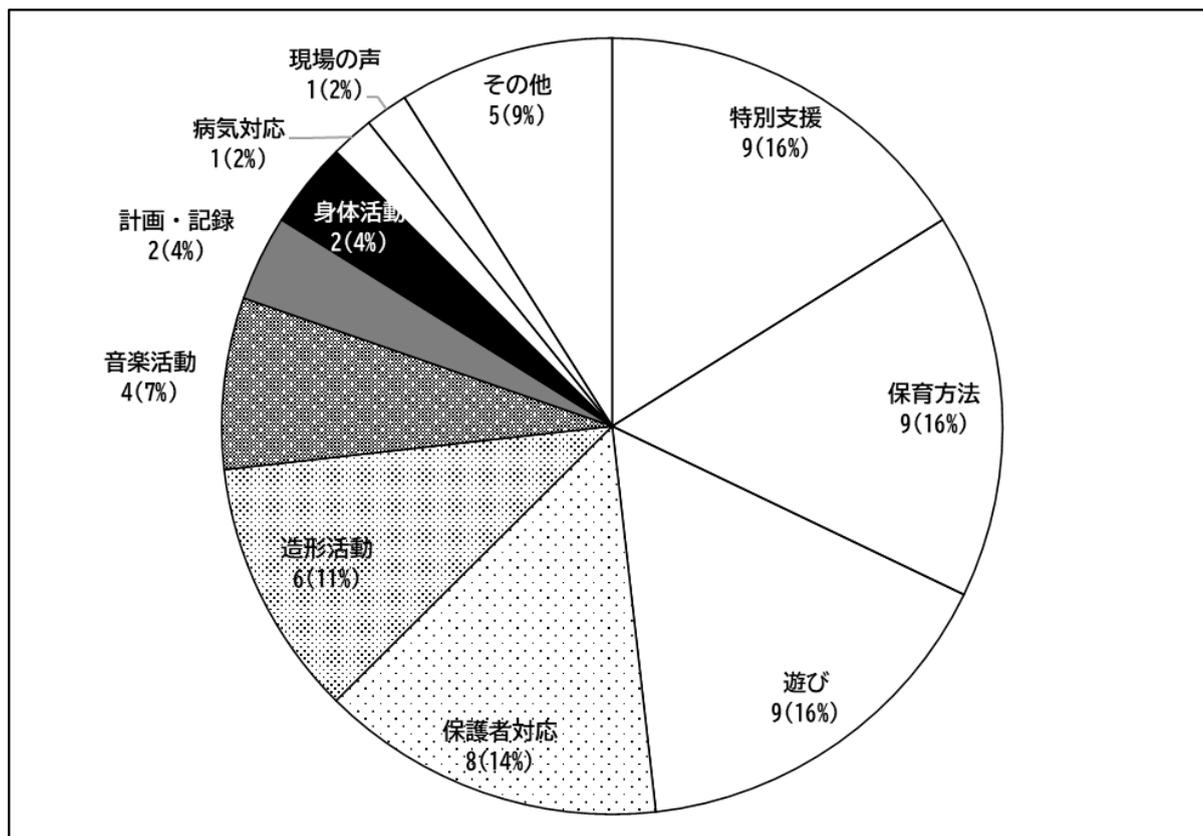


図8. 本学在学中にもっと学修したかったこと

表2. 本学在学中にもっと学修したかったことへの回答例

分類	回答数	%	回答例
特別支援	9	16.1	特別な支援を要する子どもと保護者への関わり方と支援方法（言葉かけ）
保育方法	9	16.1	年齢別の保育方法，保育室の環境設定，双子との関わり方，実践的な保育運営，乳児との関わり方
遊び	9	16.1	戸外遊びと室内遊びの種類，昔遊び・伝承遊び，風船やボール遊びの種類，集団遊び
保護者対応	8	14.3	保護者支援，保護者対応（面談や保護者会を含む）
造形活動	6	10.7	製作遊び（廃材・自然物），絵画の指導法，造形の種類，効率的な制作準備方法
音楽活動	4	7.1	ピアノ演奏，手遊び，わらべうた，音楽指導法
計画・記録	2	3.6	要録，ノート・1日の出来事をまとめる文章の書き方
身体活動	2	3.6	実践的なお遊戯の知識と技能，体育活動時の子ども補助の仕方
病気対応	1	1.8	痙攣時の保育者の動き方
現場の声	1	1.8	学生時代に保育現場（先輩）の話を聞く機会
その他	5	8.9	メンタルの保ち方，電話対応，敬語
合計	56	100.0	

(8) 卒業生対象のフォローアップ・セミナーの要望

- 保育方法
 - ・クラスの中で困っている子に気づけているか
 - ・保育実習のあり方、学ぶ姿勢
- 保護者対応
- 苦手なことへの克服の仕方

(9) 本学の教育活動に関する意見・要望

- いつも学園祭に行った時に暖かく迎え入れてくださり本当にありがとうございます。短大のオープンキャンパスに行った時から一目惚れで入って、実際コロナ禍で思うような学習はできなかった場面もありますが、卒業しても心の拠り所であり、先生たちに会いたい！と素直に思える環境をつくってくださっている先生方に感謝でしかありません。広大な敷地の中だからこそできる自然学習もとても楽しかったですし、思い出です。ありがとうございました。
- あっという間に2年目になりました。子どもたちと過ごすことが本当に楽しい毎日です。時には子どもに対して悩むこともありますが、子どもたちと日々向き合いながらこれからも一緒に成長していけたらと思います。またいつか会いに行けたら行きます。
- もう少し実践的な内容、現場に出たときに活かせるものを経験としてたくさんやっておくと良いと思う。

以上

駒沢女子短期大学
自己点検・評価委員会